

乳幼児の予防接種

乳幼児の定期予防接種の種類・対象年齢・接種方法

接種の種類	法上の対象年齢	標準的なスケジュール																				
		2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	12か月	15か月	18か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	
ロタ (ロタリックス)	出生6週0日後～ 24週0日後	①	②																			
ロタ (ロタテック)	出生6週0日後～ 32週0日後	①	②	③																		
ヒブ (※1)	生後 2か月～5歳未満	①	②	③						④												
小児用肺炎球菌 (※1)	生後 2か月～5歳未満	①	②	③						④												
B型肝炎	1歳未満	①	②					③														
四種混合 (ジフテリア 百日せき 破傷風 ポリオ または 三種混合 (ジフテリア 百日せき 破傷風) (※2)	生後3か月～ 7歳6か月未満		①	②	③						④											
BCG	1歳未満					①																
麻しん風しん 混合(MR)・ 麻しん・風しん	1歳～2歳未満 小学校就学前の1年間 (H28年4月2日～ H29年4月1日生まれ)										①											
水痘	1歳～3歳未満										①	②										
日本脳炎 (※3)	生後6か月～ 7歳6か月未満 9歳～13歳未満												①	②	③						④	
二種混合 ジフテリア、破傷風	11歳～13歳未満																					①

接種の種類	法上の対象年齢	標準的なスケジュール															
		8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳					
子宮頸がん (サーバリックス・ガーダシル) (※4)	小学6年生～高校1年生に 相当する年齢の女子 (H18年4月2日～ H23年4月1日生まれ)										① ② ③						

■は望ましい接種時期の例、①②などの数字はワクチンの接種ごとに接種の回数を示しています。

□は定期接種として接種が可能な年齢です。

◇主に小学生までに接種を開始するものを記載しています。

詳しくは、市ホームページをご覧ください。

◇予防接種には予防接種法に基づく定期予防接種（無料）のほかに、対象者（被接種者）の希望により行う任意接種（有料）があります。詳しくは医療機関またはこども健康課へお問い合わせください。

◇表の内容は令和4年2月現在の情報です。今後の予防接種情報に留意してください。

- ※1 ヒブ、小児用肺炎球菌の接種開始年齢が生後6か月を超えた場合は、接種回数が異なります。
詳しくは、医療機関またはこども健康課へお問い合わせください。
- ※2 四種混合、三種混合、ポリオの接種について
・これから接種を始める人は、四種混合ワクチンを接種してください。
- ※3 日本脳炎の特例接種について（積極的勧奨を平成17年以降に差し控えた影響に対応するための特例接種）
平成19年4月1日以前に生まれた20歳未満の人、および平成21年4月2日～平成21年10月1日に生まれた人（ただし、接種時の年齢が13歳以上は対象外）で、接種機会を逃した人は、不足分を定期接種として受けられます。詳しくは、かかりつけ医に相談するか、こども健康課までお問い合わせください。
- ※4 子宮頸がんの予防接種については、積極的勧奨を差し控えた影響に対応するための特例措置があります。
詳しくはホームページをご覧ください。

ワクチンの種類と予防接種の間隔

不活化ワクチン

（ヒブ、小児用肺炎球菌、B型肝炎、四（三・二）種混合、日本脳炎、子宮頸がん）

不活化ワクチンは、病原性を無くした細菌やウイルスの一部を使います。生ワクチンに比べて免疫力が弱いので、何回かに分けて接種します。

生ワクチン

（BCG、麻しん風しん（MR）、水痘、ロタ）※ロタは経口接種

生ワクチンは、病原性を極度に弱めた（弱毒化した）ウイルスや細菌等をワクチンとしたものです。接種後に得られる免疫は強固で、自然感染による強毒な病原体の感染を防ぐことができます。

- 別の生ワクチン（注射接種から注射接種に限る）まで中27日以上あける